

LPガスCP速報(2025年4月積)

1. 4月積みサウジアラムコLPガスCP (2月27日発表)

プロパン **615** ドル (前月比±0 ドル)

ブタン **605** ドル (前月比±0 ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が軟化するなか、中東市場は、断続的な寒波で需要は堅調、石化需要は強弱まちまちで、市況は強含みで推移した。東京、中国のカンファレンスが終了し、市場に活気が戻ったものの、中東需要を牽引してきたインドの引き合いは弱い。中国の買い気は薄い、サウジは新規PDHプラントの立ち上げで供給を絞り、濃霧の予報で米国玉の到着遅延が懸念され、需給のタイト感が強まった。極東CFR市況は、第3週で前週比横ばいのプロパン620 ドル 、ブタンは同10 ドル 下落の600 ドル どころで推移した。

米国市場は、プロパンの供給が絞られるなか、低気温で需要は堅調、輸出は過去最高水準で推移し、在庫は取り崩しが続いている。全米プロパン在庫水準は5年平均レンジの中央に収まっているものの前年同期比では4週連続で前年割れ。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の軟化を受けて反落、中旬に435 ドル まで下げたが、原油市況が反発すると480 ドル どころまで戻した。月間平均では前月比30 ドル 反落の480 ドル/トン どころ (グラフ①参照)。

フレート市況は強含み。米国～極東市場は90 ドル どころから第3週には110 ドル に続伸、中東～極東は50～60 ドル に上昇した。東京セミナー終了後、米国市場での成約ラッシュで余剰船舶が一気に捌け、需給はタイト化した。パナマ運河通峡は、減少も積み地での濃霧の影響による遅延が原因とみられ、落ち着いた状況。中東市場は、3月積みにつき早くも4月積みの成約があるなか、インド勢の揚げ地での滞船の状況が不透明で、当面、上げ基調で推移か。

ナフサ市況は2ヶ月連続の下げ、月間平均は前月比28 ドル 下落の640 ドル どころ。原油市況の軟化と石化需要の低迷を受けた。ブタン石化需要も振るわず。

バンカーオイルをみると、原油市況に連れ安、シンガポールIFO380は反落し、月間平均で前月比33 ドル 下落の472 ドル どころ、LSMGO (低硫黄マリンガスオイル)は続落し、前月比42 ドル 下落の648 ドル どころ、ガスオイル・C重油との格差は176 ドル に縮小。

4月CPは前年同月比プロパン横這い、同ブタン15 ドル の下落。原油 (アラビアン・ライト) 熱量等価換算 (下記参照) では、前月に比べプロパン、ブタンそれぞれ4ポイント上昇、前年同月比ではプロパン11ポイント、ブタン9ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート (中東-日本)	50	50	60		
CP先物指標:P	580	600	610		
CP先物指標:B	570	590	600		

② 原油市況等

3月の原油市況もトランプ砲に踊らされた。WTIは先月末から4営業日続落し5日には66.31 ドル と昨年9月以来の安値に値を沈めた。トランプ大統領はカナダ、メキシコへの関税に続き、一律25%の自動車関税も打ち出し、貿易戦争拡大によるエネルギー需要減退懸念が高まった。OPECプラスの自主減産縮小は計画通り4月から実施される見通しで市況の重しとなる一方、米政権のイラン、ベネズエラ原油への制裁強化は、短期的な供給タイト感を引き出し、先物市場では、プロンプトスプレッド (期近2限月) の逆ザヤが拡大、トレーダーはショートポジションからロングポジションに転換している。地政学リスクプレミアムをみると、ウクライナ戦争の部分停戦に向けた協議は、一進一退、イスラエルによるガザ攻撃、米国のイエメンフシ派への攻撃など中東情勢の不確実性が増し、先行きは不透明なまま。

○3月積みアラビアン・ライト (3月1～28日までの想定) は76.30 ドル (前月比-2.98 ドル)

熱量等価AL100% プロパン625.58 ドル/トン ブタン617.00 ドル/トン

AL比 プロパン98.31% ブタン98.06%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2025年4月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
3月月間	150.25	98,700	99,400	-4,100	-3,300

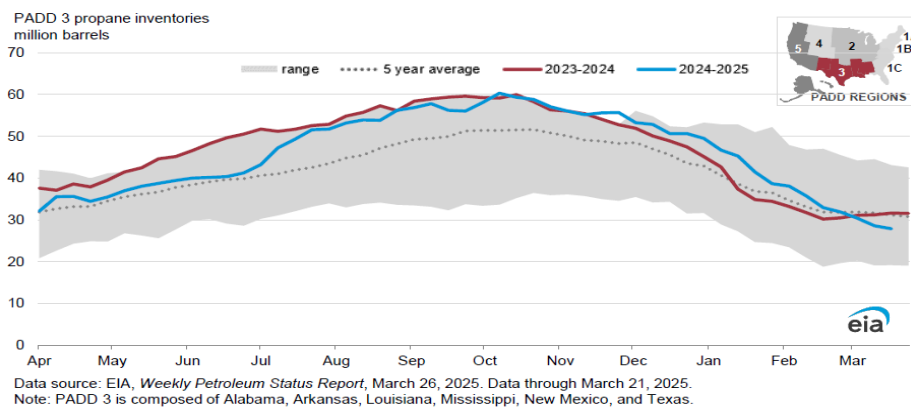
* TTS平均等について、各社の適用為替レートが一昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。上記は3月1～31日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは3月27日までの価格を基にEINで試算（452ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 米メキシコ湾岸プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量（輸出先別）推移

